

## 加西市未来の学校構想について(答申概要)(案)

令和4年8月29日

## 1. 加西の教育のありたい姿について

人口減少、少子高齢化、貧困問題の深刻化、新型コロナウイルス感染症の発生などといった社会の急速な変化の中で、加西市においても「学力」、「不登校」、「特別支援教育」、「地域・家庭の教育力」など、複雑化・多様化した教育課題が生じています。予測困難な時代にあって、加西の子どもたちが、正解のない問題に挑戦する力を身につけることはますます重要となっています。そのためには、学校現場だけでなく、家庭、地域がよきパートナーとして相互に連携・協働していく必要があります。

## 地域に根差した学校

自分が育ったふるさと加西の自然や風土を原風景として、他者との関わりの中で、豊かな発想を育み、自ら「問い」を立て、考え判断し、目的をもって行動できる力を育む。そして、自分の力で新しい価値と文化を創造し、未来に挑戦していける加西っ子の育成をめざします。

## 次世代型人材育成

市独自に STEAM 教育を導入し、教科横断的な学習や探究的な学習等を充実させることで、一人一人の子どもたちの個性と多様性を尊重し、誰一人取り残さない、3C（挑戦・協働・創造）の資質・能力を身につけた次世代型人材の育成をめざします。

## 2. 小中学校の再編についての基本的な考え方について

## (1) 中学校の再編

中学校は、小規模化に伴う教科学習や部活動の指導等の課題を解消するために、令和8年を目標に、2校に統合します。2校のうちの1校は現状の北条中学校、もう1校は、善防中学校と加西中学校、泉中学校を統合する新たな中学校（以下「統合中学校」という）です。立地場所は、各地区からアクセスしやすい候補地を取得し整備します。（用地確保が困難な場合は、既存の学校用地を確保します。）

## ポイント1 統合中学校の組み合わせ

中学校の区割りについては、学園構想（後述）による教育効果を高めるため、進学する中学校区が学園構想にマッチすることが望ましいと考えます。統合中学校の校区が広いと、東西案、南北案等も含めて協議しましたが、生徒に及ぼす影響は最小限に留めるべきものと考え、当初の2校案（素案）を様々な観点から、より望ましい案であるとしました。

## ポイント2 魅力ある中学校づくり

統合中学校は、8小学校からの進学となるため、不登校や特別な支援を要する生徒に対する、きめ細かい支援や配慮を考慮した適切な機能を有する学校が求められます。地域コミュニティ施設の併設等、複合型の中学校も視野に入れ、機能的にもデザイン的にも魅力ある、誇れる学校の整備を望みます。あわせて統合中学校の取組が、北条中学校のより魅力ある学校づくりにも活かされるよう、市全体での取組についても検討を進めていくことが必要です。

## (2) 小学校の再編

小学校においても、小規模校の課題はありますが、各校が長い歴史のなかで培われた「地域に根差した学校」であり、「次世代型の人材育成」に対しても様々な手立てや工夫を講じることができます。また、小規模校が、児童一人一人に対するきめ細やかな指導に適していることから、11校を存続させることとしました。

### ポイント3 学園構想

統合せずに各校を存続させる手立てとして、学園構想を提唱します。11校の小学校を現中学校区ごとに一つの学園とみなし、学校間の小小連携をさらに発展させしていくことで、小規模校における課題を解消・緩和するのが、学園構想のねらいです。一定規模の集団を確保するとともに、遠隔同時授業などICTを活用することで、個別最適な学びと協働的な学びを充実します。各小学校の人数規模に応じて、学園構想の内容には変化を持たせます。すでに小小連携によって実施している取組もありますが、令和5年度から計画的に着手します。

**なお、**保護者や住民が、小学校の統合を望む場合は、統合について協議を始めるためのプロセスを明示しておく必要があります。そこで、教育的観点から複式学級の発生を一つのガイドラインとして位置付け、複式学級が見込まれる2年前から（仮称）地域協議会を立ち上げることにします。地域協議会は、保護者や地域住民に対し、問題提起を行った上で、今後の方針や対策・具体的な計画などについて協議を開始します。

## 3. 地域との連携による学校づくりについて

保護者や地域住民の意見を反映していくために、令和5年度から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用していくことを確認しました。コミュニティ・スクールの導入には、新しい学校づくりの計画段階から、積極的に児童生徒や地域住民の意見を反映する必要性があり、地域との連携による学校づくりについて先進的に取り組む実績を持つ三重県松阪市立鎌田中学校を、教育委員とともに視察しました。学校と地域との連携活動においては、現状の学校の姿ではなく未来からの視点で学びの姿を見据え、従来の発想を変え、イメージを膨らませながら、子どもたちのための豊かな環境をつくっていくことが大切です。

## 4. その他必要と認められる事項について

アンケート結果からは統合中**学校**への通学に関する懸念の声が多く寄せられました。その懸念を解消するための一つの方策として、送迎バスの運行を考えます。統合中学校に通う生徒全員をバスの利用対象者とし、バス料金は無償化を検討するなどの試案を提示しました。なお、詳細な運行内容や課題については別途、協議機関を設けて、当該地域の関係者や保護者の理解を得た上で進めることとします。